

障害乳幼児と家族への支援に活かすムーブメント教育の実践分析に関する研究

研究代表者 飯村 敦子（鎌倉女子大学児童学部教授）
共同研究者 小林 芳文（和光大学現代人間学部教授）
竹内 麗子（清水台保育園園長）
吉村 喜久子（鹿苑第二保育園園長）

研究の概要

障害のある乳幼児への支援は、発達を促す早期療育と家族支援という視点から、訓練ではなく家族が楽しみながら取り組むことのできる方法論が求められている。ムーブメント教育は、楽しい動的遊びを通して、子どもの全面发展（からだ、あたま、こころ）を支援する教育であり、障害乳幼児とその家族への支援に活用できる具体的な支援法である。

本研究の目的は、ムーブメント教育による障害乳幼児の発達支援と家族支援の実践分析を通して、その有効性を明らかにすると共に、家族支援、保育士のスキルアップという側面から、その意義を検討することである。具体的には、保育所がネットワークを組み、ムーブメント教育による障害乳幼児とその家族への療育支援を展開している「たけのこムーブメント教室」を研究フィールドとして実践分析を行った。

まず、たけのこムーブメント教室における遊具環境と活用の実際についてプログラムを元に分析を行い、障害乳幼児の発達を促す動的遊びには、どのような環境が必要かを明らかにした。教室における動的環境は、運動面で未発達な子どものグループでは、トランポリン・エアートランポリン・スクーターボード・ハンモックなど揺れを中心とした感覚運動遊具を活用し、言語・社会性面で未発達な子どものグループでは、スカーフ・風船・チャイルドベンチ・フープ・ロープ・カラートンネル・大型絵カードなど知覚運動遊具を活用していた。これらの遊具による動的な環境により、子どもの自発的な動きを引き出し環境との相互作用を活性化することが実証された。

次に、障害乳幼児への支援に求められる「家族支援、育児支援」のあり方を検討するために、たけのこムーブメント教室での保護者(母親)のグループカウンセリングでの発言内容を分析した。その結果、「○○を楽しんでいた、嬉しかった・○○ができた・成長した、(これからが)楽しみ」などのキーワードが抽出された。この結果から、保護者は教室に参加することで育児の楽しさや喜びを実感していることが明らかになった。

さらに、障害乳幼児の支援に関わる保育士の専門性としてのスキル変化について、教室にスタッフとして参加する保育士38名を対象に調査を行った。この調査は、子ども理解・ムーブメントスキル・保育スキル・自己実現のカテゴリーによる20項目で構成され、ムーブメント教育を学んだことによる意識の変化について回答するものである。調査の結果、すべての項目で8割を超える保育士が「少し変化した」と回答した。特に子ども理解に関する5項目、ムーブメントスキルに関する1項目、保育スキルに関する1項目は、7割を超える保育士が「とても変化した」と回答した。この結果から、ムーブメント教育を学ぶことにより、保育士の意識の変化をうながすことが示された。

本研究の結果から、ムーブメント教育による障害乳幼児への支援について、動的活動における環境の重要性、家族支援のあり方と保育士のスキルアップという側面から、その有効性が検証された。

キーワード：ムーブメント教育、動的遊び、発達支援、家族支援、保育士のスキルアップ

1. はじめに

近年、すべての子どもが共に育つ共生の時代に入り、そこに、包括的保育の流れが打ち出されるようになった。包括的保育（インクルーシブ保育）とは、障害の有無にかかわらず、すべての子どもが一緒に保育を受け、その環境や関わりにおいて、子どもを分け隔てなく包み込む

(include) 状態での保育である。さらに、障害乳幼児への支援は、発達を促す早期療育という視点と共に、家族支援という重要な側面を有している。そこには、訓練ではなく家族が楽しみながら取り組むことのできる支援が求められる。

1986年、米国では全障害児教育修正法により、個別家族支援計画（Individualized Family Service Plan；

IFSP) の提供が義務づけられた。これは、3歳未満の乳幼児とその家族への早期介入計画を立案するためのものである。このように障害のある乳幼児とその家族を対象とした早期発達支援制度が整備され、“子ども中心のサービスから子どもを含めた家族を中心とするサービスへの転換”がはかられたのである。IFSPの重要な鍵は、家族を中心とした活動 (family directed) であり、その活動は遊び中心の関わり (play based) を基軸として、可能な限り、自然な環境 (natural environment) で行われることである。つまり、IFSPにおける家族支援の考え方は、「子どもの発達と共に家族機能も促進していくこと」なのである。

我が国では社会福祉分野において、1990年代後半に家族を支援の対象として見る「家族支援」という概念が登場し、「子ども家庭福祉」という考えが提唱されるようになった。これは、子どもが生活する家庭そのものを支援することで「親と子の生活や自己実現をペアで保障する」という考え方に立つものである。これは、害乳幼児の子育て支援という視点から考えると、本人への支援のみならず、その家族も含めた家族参加型の支援につながるものであるといえよう。

我々は、30年ほど前からムーブメント教育による障害乳幼児への支援に取り組み、実践を重ねる中で、子ども中心、遊びの要素を取り入れた楽しい活動、親子での参加、家族での活動を重視してきた。今日、WHOによる障害定義の改訂、インクルージョン思想の発展なども含めて、子どもの尊厳に目を向けた新たな視点から「家族の力」を育もうという新たな取り組みが求められている。楽しい動的遊びを通して子どもの全面発達 (からだ、あたま、こころ) を支援するムーブメント教育は、まさに「家族の力」を育む支援法であると考えている。

本研究の目的は、楽しい動的活動を通して子どもの全面発達を支援するムーブメント教育による障害乳幼児の発達支援と家族支援の実践分析を通して、身体のすべてを参加させることによる遊びを軸とした支援の有効性を明らかにすることであり、家族支援という側面からその意義を検証することである。

2. 障害乳幼児へのムーブメント教育の実践分析

「たけのこムーブメント教室」では、福井県、石川県、兵庫県にある17の保育所がネットワークを組み、ムーブメント教育による障害乳幼児とその家族への療育支援を展開している。この教室を研究フィールドとして、障害乳幼児の発達を促す動的遊びにおける環境の重要性、ならびに発達教育としての有効性を明らかにした。

(1) たけのこムーブメント教室について

たけのこムーブメント教室 (以下、教室) は、毎月1

回、福井市内の公共施設きらら館または児童館を会場として開催されている。スタッフは、ネットワーク園の保育士42名で、運動面で未発達な子どものグループ「アンパンマングループ」と言語・社会性面で未発達な子どものグループ「ドラエモングループ」での支援を展開している。ドラエモングループは9時から12時、アンパンマングループは13時から16時である。平成23年度は5月から12月の期間で7回開催された。

平成23年度の参加者は、0歳から5歳の障害のある乳幼児と家族33組であった。子どもの障害と年齢の内訳は、以下の通りである。アンパンマングループは、脳性麻痺5名 (5歳児2名・4歳児2名・3歳児1名)、ダウン症8名 (5歳児1名・4歳児1名・3歳児2名・2歳児3名・1歳児1名)、広汎性発達障害1名 (2歳児)、精神発達遅滞1名 (3歳児)、超未熟児1名 (0歳児) の18名、また、ドラエモングループは、広汎性発達障害2名 (5歳児)、ダウン症2名 (4歳児)、自閉症5名 (5歳児4名・4歳児1名)、脳梁欠損症1名 (4歳児)、その他4名 (5歳児2名・4歳児1名) の15名であった。

(2) 教室の流れとプログラム

教室は、フリームーブメントが約1時間、集団ムーブメントが約1時間、水分補給などの休憩が約30分 (プログラム中に適宜休憩が設定される)、グループカウンセリング (振り返り) が約30分である。資料1、資料2に、アンパンマングループ (11月) とドラエモングループ (7月) のプログラムを示した。

(3) ムーブメント環境に関するプログラムの分析

教室における遊具環境と活用の実際についてプログラムを元に分析を行い、障害乳幼児の発達を促す動的遊びには、どのような環境が必要かを明らかにした。分析の対象は、平成23年5月から7月に実施されたアンパンマングループ6回、ドラエモングループ6回である。教室における動的環境は、アンパンマングループでは、トランポリン・エアートランポリン・スクーターボード・ハンモックなどの揺れを中心とした感覚運動遊具であった。またドラエモングループは、スカーフ・風船・チャイルドベンチ・フープ・ロープ・カラートンネル・大型絵カードなどの知覚運動遊具であった。これらの遊具による動的な環境により、子どもの自発的な動きを引き出され、環境との相互作用を促して活性化し、発達のための良循環が生まれることが示された。

3. 家族支援から見たムーブメント教育実践の有効性

教室では、毎回参加した保護者 (母親) のグループカウンセリングを行っている。ここでは、障害乳幼児への支援に求められる「家族支援、育児支援」のあり方を検

討するために、グループカウンセリングにおける発話内容を分析した。

（1）グループカウンセリングにおける母親の発話内容

アンパンマングループの母親の発話内容は、以下の通りである。

- 5月・初めてバギーのままトランポリンに乗せてもらい、揺れを楽しんでいた。
- ・トランポリンの周りに支えながら立たせていたが、しっかり立って手を出していた。
 - ・初めての参加だったが風船こいのぼりの上に乗って、とても気持ちよさそうな表情をしていたのが嬉しかった。また、身体の力も抜けてリラックスしていた。
- 6月・プレイバンドでのおあつまりは、自分から握って自然に手が参加していた。
- ・箱キャスターでの移動は、ヒモをしっかり握ってバランスをとっていた。
 - ・カエルが登場すると、じっと集中して見ていた。
 - ・みんなと一緒に参加することでこれからの成長が楽しみである。
 - ・水のりの上に寝ころんで、その感触を楽しんでいた。
 - ・好きな場所では言葉では言えないが表情で訴えていた。
- 7月・浮き輪のユランコに乗って、スピード感が味わえたのがよかった。
- ・ウオーターマットの感触はとても気持ちよさそうな表情をしていた。
 - ・ふれあい遊びの「おせんたく」では、タッピングをととても喜んでいたので、家でもしてあげたい。
 - ・浮き輪を積み上げたタワーでは、手を伸ばし倒すのも喜んでいて。また、スカーフの波にタッチしようと必死で手を伸ばしていた。
 - ・水のいった風船タッピングは、いろいろな身体部位を刺激できてよかった。
- 9月・円盤形のエアートランポリンでは、斜面を利用して寝返りをさせてあげると自分でも身体を起こそうとしていた。
- ・下の子が生まれ、妹を叩いたり引っ張ったりすることもあるが、温かく見守り、いろいろなことをさせてあげて、ほめるようにしていきたい。
 - ・寝かせた姿勢が多かったが、起こしてあげるとその姿勢でいられる時間が長くなってきた。
 - ・ムーブメント教育を見させていただいたが、子どもが生き生きしていて素晴らしい時間を過ごせていることに感動した。また、五感を使った遊びがとても工夫されている。
 - ・体調を整えて毎日生活するのは大変だが、ここに来ていい表情を見るとこれからも参加したいと思

う。

- 10月・戸外で遊ぶことが少ないが、今回外でのたくさんの活動をさせてもらい、自分自身がリラックスできた。

- ・パラシュート風船に乗りながら、上からおりてくるパラシュートを心地よさそうに見ていた。
- ・どんぐりや落ち葉を手で触ったのも初めてだったが、においなども楽しめた。
- ・ふれあい遊びの「ひつつきもつつき」では、寝ていた姿勢を起こしてもらい、母親の顔が見えるといい顔が見られた。
- ・どんぐりをペットボトルに入れる時、最初はグーだった手が何とかどんぐりをとろうとパーにしてつかめるようになりとても嬉しかった。

- 11月・ダイナミックにエアートランポリンから板すべりを楽しみ、何回も要求していた。

- ・2、3ヶ月前から比べると成長を感じることができた。
- ・ダイナミックな動きを十分したので、帰りのお集まりで初めて最後まで座っていることができた。
- ・エアートランポリンの傾斜を四つ這いで上手に登っていた。

- 12月・初めて立位でのトランポリンを楽しんでいた。膝を伸ばし力を入れていたのもよくわかった。

- ・自分の生きたいところ、やりたいことを少し言葉で伝えられるようになってきた。
- ・パラシュートでのブラックライトやミニサンタのダンスもとても喜んでいて。
- ・ミュージックベルに興味を持ち、何度も触って音を楽しんでいた。
- ・泡立てネットでのタッピングや抱っこでのキャッチは、ちゃんと目で追っていた。

ドラエモングループの母親の発話内容は、以下の通りである。

- 5月・ムーブメントが好きなので、たくさん経験させた

- ・集団だからか、やりたいことに自分から参加する姿が見られ嬉しかった。
- ・昨年よりも遊びを楽しんでいて一つの遊びに集中することができた。
- ・4月はたけのこ教室がないので、行きたくてしょうがなかった。成長した姿が見られた。
- ・小林先生はどんなときでも子どもを誉めてくださった。自分も誉めることを増やしたい。
- ・登園したとき、緊張していて機嫌が悪くても、トランポリンを跳ぶと機嫌がなおる。

- 6月・音楽が好きで、聞こえてくると積極的に参加していた。

- ・フリーのトランポリンの個人発表では、自分から

やりたいことを身体で表現していた。

- ・トランポリンの揺れを心地よく感じながら跳んでいた。
 - ・落ち着いてきたし、集中して遊ぶ姿が見られ、笑顔もありよかった。
 - ・身体を使って遊ぶのが好きで、今日もかなり動いていた。
 - ・最後まで楽しんで参加していた。子どもを見守りながら笑顔で声をかける大切さを学んだ。
- 7月・自分で好きなことを見つけていたし、最後まで参加できたのが嬉しかった。
- ・以前でできなかったことができるようになり、本当に嬉しかった。
 - ・なかなか集団に入れないが、自分で興味のある場面を見つけてそこには入っていた。
 - ・初めて、一人でトランポリンを跳ぶことができ嬉しかった。
 - ・とても表情が豊かになった。集中して参加し本人がすごく楽しんでた。
 - ・親から離れて、自分から参加している姿が見られよかった。
- 9月・できたことを「すごいね」と誉め、認めてあげることを学んだ。
- ・いろんなことに積極的に参加できるようになった。
 - ・子どもと一緒に参加したり、少し離れて見たりすることができる教室である。
 - ・参加している子どもの表情を見て、本当に楽しんだと思う。
 - ・ほとんどのプログラムに喜んで参加できていた。
 - ・身体を動かすことが苦手な我が子が、自分かTらと乱歩林2回跳びたいと行ったことに驚いたし、親として嬉しかった。
- 10月・大自然の中で、のびのびと遊べていてよかったし、子どもが生き生きとしていた。
- ・すごい体力がついたと思ったし、最後まで参加できたのが嬉しかった。
 - ・みんなと一緒に指示を聞いて動くことは難しかったが、集団の中から離れることなく活動していたので嬉しかった。
 - ・「健康の森」の戸外だから、途中で挫折するかと思ったが最後までよく歩き驚いた。
 - ・自分自身がとても楽しく、よい思い出になった。いい体験をさせていただいた。
 - ・こんなにゆったりと過ごせて、親子共々幸せな時間だった。家でも十分に時間を取り子どもとゆっくり関わっていきたいと思った。
- 11月・集団ムーブメントの課題を上手にクリアしていた。
- ・子どもから一緒にしようと誘いがあり、やりたいことを伝えられるようになった。
- ・何度も「やりたい」と自分から言ってきた。主張できるようになったことが驚きだった。
 - ・すべてには興味がなく、なかなか港一緒に参加できないが、好きなことはやはり自分から積極的に参加していた。
 - ・はじめから最後までずっと喜んで参加していたので驚いた。
 - ・子どもがプログラムの絵を見て「今日は何をするの？」と聞き説明したら「次は〇〇や」と期待しながら参加していた。
- 12月・スペースマットの色がわかるようになり嬉しかった。
- ・いつもは暗いのが怖い、ブラックライトの中でお花が美濃之が振ってくるファンタジックな雰囲気、怖がらずに参加できた。
 - ・保育園で使っているムーブメント教材を「これ知ってる、スペースマットだ」と自慢げに話をしてくれ、記憶できていることが嬉しかった。
 - ・ムーブメントの中で自分から喜んで参加する姿を見たら、親として本当に嬉しい。
 - ・ダイナミックな動きが大好きで、何回も挑戦していた。
 - ・教室の会場に入るのを、初めて嫌がらずに泣くこともなくスムーズに入れて驚いた。

母親の発話内容を見ると、下線部に示したように、「〇〇を楽しんでいた、嬉しかった・〇〇ができた・成長した、(これからが) 楽しみ」などのキーワードが印象的である。つまり「子どもができたこと」「子どもが楽しかったこと」「自分が楽しかったこと」「自分が嬉しかったこと」「驚いたこと」について話していることがわかる。この結果から、保護者が教室での我が子の姿を通して、育児の楽しさや喜びを実感していることが明らかになった。

4. 保育者のスキルアップから見たムーブメント教育実践の重要性

障害乳幼児の支援に関わる保育者のスキルアップは、保育における今日的課題である。ここでは保育士の専門性としてのスキル変化について、教室にスタッフとして参加する保育士38名を対象に調査を行った。

この調査は、子ども理解・ムーブメントスキル・保育スキル・自己実現のカテゴリーによる20項目で構成され、ムーブメント教育を学んだことによる意識の変化について「非常に変化した」「少し変化した」「変化はない」の3件法で回答するものである。質問項目は以下の通りである。

「子ども理解」に関する項目

1 子どもの発達の理解

- 2 子どもの見方
- 3 子どもを誉めることやその方法
- 4 子どもへのことばかけ
- 5 子ども一人一人を大切にすることの気持ち
- 6 障害のある子どもとの関わり方

「ムーブメントスキル」に関する項目

- 7 遊具や教材の活用方法
- 8 音楽や音の活用方法
- 9 場づくりのセンス

「保育スキル」に関する項目

- 10 保育が楽しいと感じる気持ち
- 11 保育の柔軟性
- 12 保護者との関わり
- 13 保育士としてのやりがい
- 14 人とのつながり

「自己実現」に関する項目

- 15 人を思いやる気持ち
- 16 自分は役に立つという気持ち
- 17 自分を大切に思う気持ち
- 18 自分自身の積極性
- 19 自分自身の優しさ
- 20 自分自身の感性

調査の結果、すべての項目で8割を超える保育士が「少し変化した」と回答した。特に子ども理解に関する5項目、ムーブメントスキルに関する1項目、保育スキ

ルに関する1項目は、7割を超える保育士が「とても変化した」と回答した。この結果から、ムーブメント教育を学ぶことにより、保育士の意識の変化をうながすことが示された。

5. おわりに

障害のある乳幼児への支援は、発達を促す早期療育と家族支援という視点から、訓練ではなく家族が楽しみながら取り組むことのできる方法論が求められている。ムーブメント教育は、楽しい動的遊びを通して、子どもの全面発達(からだ、あたま、こころ)を支援する教育であり、障害乳幼児とその家族への支援に活用できる具体的な支援法である。

本研究の目的は、ムーブメント教育による障害乳幼児の発達支援と家族支援の実践分析を通して、その有効性を明らかにすると共に、家族支援、保育士のスキルアップという側面から、その意義を検討することであった。具体的には、保育所がネットワークを組み、ムーブメント教育による障害乳幼児とその家族への療育支援を展開している「たけのこムーブメント教室」を研究フィールドとして実践分析を行った。

本研究の結果から、ムーブメント教育による障害乳幼児への支援について、動的活動における環境の重要性、家族支援のあり方と保育士のスキルアップという側面から、その有効性が検証された。

写真：アンパンマングループでのムーブメント活動の様子



写真：ドラエモングループでのムーブメント活動の様子



写真：アンパンマングループでのムーブメント活動の様子

たけのこムーブメント教室 日案 アンパンマングループ			実施日	平成23年11月18日		
ねらい	☆感覚を育てる ☆操作性を育てる ☆聴覚を育てる		場所	きらら館	指導者	たけのこの家 高原 沙織
時間	活動内容・方法		配慮すべき点	指導のポイント		準備物
9:00	・登園、受付 ☆フリー ムーブメント	・挨拶、シール貼り ・エアートランポリン ・ワンロール ・落ち葉のプール ・どんぐりあそび ・手先の遊び ・トンボのトンネル ・おいもさんコロコロ ・秋のつるし物	・一人ひとりを笑顔で迎え、子どもの様子を把握する ・一人ひとりの状況に合わせて動きを応援しながら、その子のやりたい遊びを十分にできるようにする ・子ども達が触りたくなるような環境作りをする ・子ども達のやりたい気持ちを大切に、いろいろなものに挑戦できるようにする ・秋ならではの遊びを十分に経験できるように遊びに誘う	・自発性を育てる ・動きの基本能力を育てる ・前庭感覚を育てる ・バランス感覚を育てる ・集中力を育てる ・操作性を養う ・身体意識を育てる		名札 シール エアートランポリン ワンロール 落ち葉 どんぐり まつぼっくり サークル2個 トンボのトンネル 三角マット 秋のつるしもの バルーン オーガンジーパラシュート
9:45	エアートランポリン に乘ろう ☆水分補給 ☆お集まり	・みんなで楽しく揺れを 楽しもう ・プログラム説明 ・お返事はいい ～プレイバンドを 使って～	・一人ひとりに合った姿勢での心地よい揺れを経験する ・輪になってみんなでロープを上げたり振ったりすることで同じ動きを楽しむ ・みんなで音を出したり止めたりして音を楽しむ	・前庭感覚を育てる ・他者意識を育てる ・聴覚連合能力を育てる ・自信、意欲を育てる ・社会性、仲間意識を育てる		プレイバンド ピアノ
10:15	ふれあい遊び	・おせんたく	・歌いながらお母さんとたくさん触れ合うことで安心感が持てるようにする	・情緒の安定を図る ・身体意識を育てる		座布団
10:30	☆集団 ムーブメント 「トトロ会いに行こう」 「トトロに会いに行こう」	・みんなで出かけよう オーガンジートンネル 玉子パックの道 カラーボールのじゃり道 坂道 ・森の妖精がやってきた 落ち葉の一本道 くもの巣 ・トトロのおなかに乗ろう ・トトロと一緒に遊ぼう	・視覚的や感覚的に変化のある環境を用意し楽しくあるく ・さまざまな感触を味わいながら手を伸ばしたくなるような環境を作る ・スタッフの出し物を見て、子ども達の意欲を引き出せるように工夫する ・一人ひとりの動きに合わせて滑り降りる ・ダイナミックな動きをたくさん経験する ・パラシュートを使ってみんなで一体感を感じられるようにする ・ファンタジックな雰囲気味わう	・視覚を育てる ・聴覚連合能力を育てる ・バランス感覚を育てる ・季節感を感じる ・スピード感を味わう ・ダイナミックな動きを味わう ・空間意識を育てる ・ファンタジックな雰囲気を味わう ・情緒の安定を図る		がちゃがちゃどんぐり スカーフトンネル 玉子パック カラーボール 坂道（わに） カラポリの衣装 エアパッキン くもの巣 ゆらんこ トトロ（風船） 落ち葉 パラシュート 透明パラシュート CD
11:15	☆お集まり ・解散		・遊んでいた事を話していただき次回へのムーブメントにつなげていく。	・記憶の再現		
具体的内容				小林教授の指導・評価		

写真：ドラエモングループでのムーブメント活動の様子

たけのこムーブメント教室 日案 ドラえもんグループ			実施日	平成23年7月15日	
ねらい	・時間・空間意識を育てる。 ・ダイナミックな動きを楽しみながら 身体意識を高める。	場所	きらら館	指導者	鹿苑第二保育園 山崎 智佐江
時間	活動内容・方法	配慮すべき点		指導のポイント	準備
PM 1:15	・登園/受付	・シールを貼り名札を付ける	・一人ひとりを笑顔で迎え、子どもの姿、状況を把握する。		名札・シール 出席カード
	☆フリームーブメント	・トランポリン・バールン・戸板・キャスター・浮き輪 ウォーターマットなど	・子ども達が、自分の好きなコーナに行き、十分に遊べるよう、援助したり言葉掛けをする。	・自発性を育てる ・動きの基本能力を育てる	
2:00	☆個人発表	・トランポリン	・一人ひとりに合わせた援助をしたり、ピアノで応援したりしながら楽しくとべるようにする。	・バランス能力を育てる ・他者意識を育てる ・筋力を育てる	トランポリン ベンチ
2:15	・水分補給 ・お集まり	・プログラム説明	・水分補給をして、次の活動への準備をする。		
2:20	☆集団ムーブメント 手作り風船ボールを使って 遊ぼう	・風船ボール送り ・部位にのせる・はさむ ・色の指示 ○自由に遊ぶ ・転がす・投げる・取る ・弾ませる・蹴る ・的当て等	・1つの風船ボールから始め、徐々に数を増やすなど、変化を加えながら楽しめるようにする。 ・一人ひとりのベースや動き等に合わせ、遊びに満足できるよう配慮しながら、援助する。	・他者意識を育てる ・身体意識を育てる ・色知覚の発達を促す ・時間・空間意識を育てる	風船ボール
	バナナマン・トマトマン イルカマンがやってきた！	○動く的を狙いの的当てをする。 ○パラシュートに風船ボールを乗せて振る。	・的になるスタッフは、個人差を考慮し、動き方やスピード等に変化を加えていく。 ・大勢の人でパラシュートを操作することで社会的スキルや遊びの楽しさを引き出していく。	・ダイナミックな動きを楽しむ ・方向性（空間意識）を育てる ・社会性を育てる ・手の操作性を育てる	バナナ トマト イルカの的 パラシュート
2:50	紙管で遊ぼう	○紙管と風船ボールを組み合わせて遊ぶ。 ・ゴルフ・紙管で挟む ・のせる等 ・引っ張る・ぶらさがり ・くぐる・またぐ等 ・長い紙管でダンスを楽しむ。	・風船ボールは紙管を通して、親子のやりとりを見守り、楽しく遊べるように言葉掛けをしていく。 ・またぐ、くぐるなどの動きや、ぶらさがり等も取り入れ、ダイナミックに楽しめるようにする。 ・親子で色々な動きが楽しめるようにする。	・目と手の協応能力 ・手先の操作性を育てる ・身体意識を高める ・時間・空間意識を育てる	紙（長・短） ゴール CD
	海だよ きもちいいね	○パラシュートの揺れや波の音を聞きながら海の雰囲気味わう	・ゆったりとリラックスできるような、ファンタジックな環境の中で、夏を感じられるようにする。	・ファンタジックな雰囲気を味わう	スクリーン パラシュート シャボン玉 波の音 紙ふぶき パン 飲み物
3:20	お集まり ミーティング	・楽しかったことを話合う。	・経験したことを振り返り、喜びと発見を次の教室へとつなぐ	・記憶の再現	

《具体的内容》	小林教授の指導・評価
○風船ボールで遊ぼう ・風船ボールを送る ・色を確認する ↓ （色ごとに指示された音階に合わせて歩く） ・自由あそび カラーボールの音階に合わせて歩く。子どもたちの様子を見ながら援助する。 ○バナナマン・トマトマン・イルカマンがやってきた！ ○パラシュート ○紙管で遊ぼう ○海だよ きもちいいね 	